

連合長崎第25回定期大会

ストップ・ザ・格差社会 すべての働く者を連合の輪へ 「安心社会」を切り拓こう!

ストップ・ザ・格差社会!すべての働く者を連合の輪へ「安心社会」を切り拓こう!

拡大、連帯活動を強化しすべての働く者の権利を確立し、安心・安全・福祉の社会を実現し、平和・人権・労働者の権利を擁護し、第24回参議院議員選挙を勝利しよう!
公正、労働条件向上、ワーク・ライフ・バランスの確保、労働者の権利を擁護し、第24回参議院議員選挙を勝利しよう!
組合の社会的責任において、平和・人権・労働者の権利を擁護し、第24回参議院議員選挙を勝利しよう!



連合長崎は、2015年10月22日(木)の14時からANAクラウンプラザ長崎グラバーヒルにおいて第25回定期大会を開催しました。

大会は、上田副会長の開会あいさつにはじまり、議長団にJ P労組・松本代議員、電機連合・本川代議員、交通労連・下嶽代議員を選出して議事が進められました。

冒頭、森会長があいさつ(別記)を行い、その後、連合本部 安永副事務局長、里見長崎県副知事、大塚長崎労働局長、田上長崎市長、宮島民主党県連代表代行、吉村社民党県連代表より激励のあいさつを受けました。

その後、「第14回フォトコンテスト」最優秀賞の内田貴浩さん(佐世保重工労組)の表彰を行い、2014年10月1日から今回の定期大会までの組織拡大実績に基づき、UAゼンセン、交通労連、基幹労連へ「組織拡大に関わる交付金」を授与しました。

引き続き、一般経過報告、2015春季生活闘争総括、2015年度連合長崎選挙総括、2015年度会計報告・

会計監査報告をし、満場の拍手をもって全会一致で承認されました。

議案については、第1号議案「2016年度運動方針(案)」、第2号議案「2016年度予算(案)」、第3号議案「第24回参議院議員選挙対策(案)」、第4号議案「2016・2017年度連合長崎役員選出(案)」の提案を行い、それぞれが承認されました。

引き続き、「ディーセントワーク世界行動デー」の取り組みの一つとして、ディーセントワークのチラシを掲げ、アピールが行われました。「大会宣言(案)」の採択、新任の本多副会長の閉会あいさつ後、森会長のガンバロー三唱で締めくくりました。連合長崎は、「ストップ・ザ・格差社会!すべての働く者を連合の輪へ「安心社会」を切り拓こう!」というスローガンのもとに、各構成組織と連携しながら、2016年度の取り組みを進めていきます。



〈議長団〉 左から、J P労組・松本代議員、電機連合・本川代議員、交通労連・下嶽代議員

◆会長あいさつ◆

●第189回通常国会について

戦後最長のこの国会は、我が国の将来に極めて大きく重い影を落とし、政権の暴走により二つの法案が強行採決された。

一つ目は、労働者派遣法の改悪である。残念ながら、派遣労働者の派遣期間が撤廃され「生涯派遣で低賃

金」の制度が強行可決された。

安倍政権の政策運営を見ると、どこを向いて、誰の為に政治を行っているのか生活者や労働者が二次、三の次に置かれ投資家や経営者がどう反応するかを第一にした政権運営を行っているように思えない。生活苦にあえぐ国民を犠牲にした成長戦

略など言語道断。連合は雇用が不安定な派遣労働は「一時的な労働」と位置づけ、より安定した正社員への転換が大原則と主張してる。この法案は不安定雇用や低処遇にメスを入れることなく、派遣は派遣のまま生涯働かせることが出来るという悪法である。

法案の中にある派遣延長する場合は「過半数労働組合の意見を尊重する」との決定は連合の成果として評価するが、各組織・単組が十分機能するよう指導・強化することが重要である。この法案は危険性が極めて高く、逆に正社員から派遣への置き換えが進み、日本の将来を背負う子どもたちの就職は派遣などの非正規社員の道しかない世界になりかねない。

政府は今後も、長時間労働を助長しかねない残業代ゼロの「ホワイトカラーイグゼンプション」や、解雇の金銭解決制度や、人手不足を理由にした安易な外国人労働者の受け入れなどの改悪を目論んでいる。

これらの労働者保護ルールの改悪は、まだまだ続くであろう。連合本部の方針に沿って運動を展開して行く。

二つ目は安全保障関連法案である。

憲法解釈を変更し、我が国の根幹にかかわる重要法案の数々が、取り上げるほどの価値がないものかの如くひとまとめに扱つかわれ、国会答弁も二転三転し、「なぜそんなに急ぐのか」との国民世論を無視し審議不十分のまま、数の力で強行採決に至った。4月末にまだ法案の中味を国民に提示していない段階で、アメリカ上下両院議員総会で「夏までにこの法案を成立する」と宣言した米国議会と米国国民との約束を優先し、日本議会と日本国民の疑念や疑問を払拭することなく成立をはかった、日本国のリーダーとしてあるまじき暴挙である。私たちは立憲主義・民主主義を揺るがすこの政治手法を決して忘れてはいけないうし、引き続き力を合わせることが極めて重要である。

私たちが希求する「政策・制度」を実現するためには労働者の代表として一人でも多くの代表者を政治の場に送らなければならない。来年7月の参議院選挙と、更に衆議院も近いうちに解散があるかもしれないし、重要な戦いとなる。暮らしや働き方が大きく変わり政治に無関心であってはならない時代に直面している。今こそ力を合わせよう。

●「組織拡大」について

連合長崎独自の取組みとしてこの2年間、一人でも入れる地域ユニオンの結成、労働するうえでの問題や基礎知識を学習してもらうための長崎大学への寄付講座、単組3役を対象として組織強化学習会など新たな試みを実践してきた。そして来年3月には非正規労働センターを開所する計画である。その上で、連合長崎の当面の課題として組織強化と拡大について一言申し上げる。連合が掲げる2020年に「1000万連合」への組織拡大は単年度目標には届かないものの、着実に実績を上げてきている。

連合長崎も1万人の組織拡大を目標としているが、特にUAゼンセンの実績でこの一年で1,700人を超える拡大ができ、年間目標の1,500人を達成した。

今後拡大をする上での前提となるのが組織化された組合の組合員がどれだけ組合の存在価値を認め、組合の活動を理解し行動しているのか・・・今、多くの組織が悩み苦しんでいる共通の問題である。

「組合員の組合離れ」という言葉を耳にするが、もしかしたら「組合役員や職場代議員の組合員離れ」が起こっていないか？たとえば集会や会議に動員の要請をする際に、あの人たちはお願いしても応えてくれないから、今回もこの人たちをお願いしようという判断をしていないか？結局いつも同じ顔ぶれが参加していないか？なかなか協力してくれない組合員に一線を引いていないか？

組織拡大につなげるためには、まずは自らの組織の組合員満足度を高めることが重要であり、そのことが組織化されてない労働者に好影響をあたえることではないかと思う。このことは極めて難しい課題であるが、同時に極めて重要な課題でもある。そのためには、組合活動の原点である「職場進出と対話活動」を通じて「組合員の意見や悩みを聞く勇気」が一番の特効薬と考える。連合長崎はこの2年間で成果を出すために組織の強化と拡大に取り組んでいく。

来賓あいさつ



連合本部 安永副事務局長



里見副知事



大塚長崎労働局長



田上長崎市長



宮島民主党県連代表代行



吉村社民党県連代表



ディーセントワークアピール

「ディーセントワークとは？」

ディーセントワークという言葉は、1999年第87回ILO総会での報告の中で初めて用いられたもので、今でもILOの活動の主目標に位置付けられています。ILOはディーセントワークの定義を、「権利が保障され、十分な収入を生み出し、適切な社会的保護が与えられる生産的な仕事で、全ての人々が収入を得るのに十分な仕事があること」としています。日本語の定訳としては「働きがいのある人間らしい仕事」とされています。私たちが日ごろの取組の基盤としている労働者の権利の保障、十分な収入、適切な社会保護、雇用の創出、そういったものを大切にしたい仕事「ディーセントワーク」なのです。



旧役員あいさつ



新任役員

大会宣言

連合長崎は、本日、第25回定期大会を開催し、組織強化・拡大、2016年度春季生活闘争、政策制度実現などの諸課題の前進に向けた方針を力強く決定した。

わたしたちは、第189通常国会における政府・与党の暴挙を決して許さない。

一つは、労働者派遣法の改悪である。今回の見直しは、「均等待遇原則」と「派遣は臨時的・一時的業務に限る」という世界の常識から大きく逸脱しており、“生涯派遣で低賃金”を助長するものである。

もう一つは、国会内の数の力で安全保障関連法を強引に成立させたことである。多くの国民が「説明不足」「議論が尽くされていない」と反対や疑問の声をあげ、法曹界からは憲法違反という指摘があったにもかかわらず、国民の理解と合意形成を得る努力を怠り、採決を強行した。これは民主主義に対する暴挙であり、断じて許されるものではない。

加えて政府は、いわゆる「アベノミクス」の成果を喧伝しているが、貧困率は上昇し、格差社会が進行している。年収200万円以下で働くワーキング・プアが1,100万人を超え、働く者を使い捨てにする、いわゆるブラック企業も後を絶たない。経済の好循環には「底上げ・底支え」「格差是正」こそが必要である。しかし、政府は「日本を世界で一番企業が活躍しやすい国にする」ために、労働者保護ルールを破壊しようとしている。働く者を犠牲にする成長戦略を認めるわけにはいかない。

いまこそ連合は、働く者・生活者の一人ひとりの怒りを結集し、社会を変革する大きな力にかえていく。そして、集団的労使関係を社会の隅々にまで張りめぐらし、互いに支え合い、助け合い、ともに運動する仲間の輪を拡げていく。同時に、東日本大震災を風化させることなく復興・再生を引き続き全力で支えていく。

私たちがめざすのは、すべての人が自分の居場所と出番を見出し、かけがえのない人生をたくましく生きることができる社会。すなわち、働くことに最も重要な価値を置き、誰もが公正な労働条件のもと多様な働き方を通じて社会に参加でき、セーフティネットが組み込まれた「働くことを軸とする安心社会」である。

社会の不条理に立ち向かい、すべての働く者・生活者の希望と安心を取り戻すために連帯して立ち上がろう。

来年の第24回参議院議員選挙は、そのための重要な闘いである。巨大与党の暴走を止め、働く者・生活者の声を政治に反映させるため、組織内比例代表候補12名はもとより推薦候補者全員の当選に向け、連合682万人の仲間とともに総力を挙げて闘う。

わたしたちは、本定期大会で決定した運動方針に基づき、新たな労働運動のスタートをきる。

ストップ・ザ・格差社会！すべての働く者を連合の輪へ「安心社会」を切り拓こう！

以上、宣言する

2015年10月22日

日本労働組合総連合会
長崎県連合会第25回定期大会

知っていますか？ 職場での点検を！

★2014年6月に改正された労働安全衛生法に基づき従業員50人以上の職場には、医師・保健師等による心理的な負担の程度を把握するための検査(ストレスチェック)の実施が義務付けられました。いよいよこの12月から施行となっていますが、職場でのどのように実施されるかご存知ですか？確認をしてみましょう。

★2015年8月末に女性活躍推進法が成立しました。この法律に基づき301人以上の企業は、女性の活躍に関する事業主行動計画の策定が義務付けられ、法の施行日(2016年4月1日)までに計画を策定しなければなりません。行動計画の策定の際は、労働組合も積極的に参画し、職場実態や課題を計画に反映できるよう取り組みましょう。



連合ながさきユニオン定期大会

～一人はみんなのために、みんなは一人のために～



連合ながさきユニオン第3回定期大会が2015年11月8日に長崎地区労会館会議室で開かれました。「1人でも加入できる労働組合」として2014年3月29日に結成されてから、現在38人の組合員の方がいます。賃金削減やパワハラなど厳しい労働環境の中で組合員となり交渉を重ねながら、解決に向けて頑張っています。普段は組合員同士なかなか会う機会がありませんが、総会後は食事会を開き交流しました。

誰にも相談することが出来ずに劣悪な環境で仕事を余儀なくされている働く仲間がたくさんいる現状から、「連合ながさきユニオン」の社会的役割と使命はますます大きくなっています。これからも、各構成組織・各地協のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

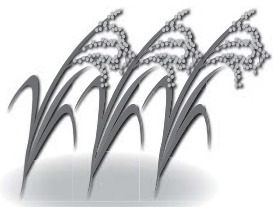
「連合・愛のカンパ」贈呈式を行いました

「連合・愛のカンパ」は、社会貢献活動を行うNGO・NPO団体等の事業・プログラムへの支援を行っています。

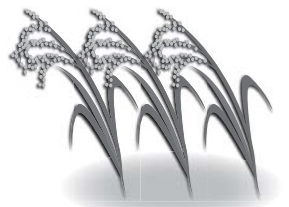
連合長崎においても地域助成団体を募集し、昨年に引き続き「佐世保音声訳の会」(会長 平嶋 仁子 様)への助成が決定、佐世保地協第10回定期総会(11月7日開催)にて贈呈式を行いました。

「佐世保音声訳の会」は、市や社協の広報誌などを文字から音声に訳し、視覚障がい者の方に提供をしている団体です。愛のカンパの助成金は、音声訳をする際に使われる機器の購入等に使われる予定です。





「アジア・アフリカ支援米」 各地協で稲刈り！



春に田植えを行った各地協・ブロックにおいて、10月に稲刈り作業を行いました。各地協で様々なイベントを盛り込み、楽しい汗を流しました。

収穫された支援米は、現在、各構成組織へお願いしています。カンパ金で購入するお米と合わせ、来春3月に支援先に発送予定です。各地協・ブロックの役員、組合員・家族の皆様、ご協力ありがとうございました。

五島



諫早



長崎



島原



大村・壱岐・対馬



佐世保



北松

